

「まめバスすごろく」で疑似体験！地域の宝を発掘、活用、未来につなぐ

応募チーム名：草津おみやげラボ情報部：滋賀県草津市

(特徴)

草津市の市民意識調査結果報告書では、「基礎的コミュニティの活性化」と「市民公益活動の促進」について、市民の関心も市民の市政への満足度も低いこと、また、「まちに誇れるものがある」「市民主役のまちづくりが進んでいる」と思う人が少ないことが明らかになっている。しかし、草津市の食・歴史に触れたりする場所を提供する取り組みを4年前から続けている「草津おみやげラボ」は、その活動を通じて、誇れる地域資源があることや



個々で行われている課題への市民の取り組みがあることを知り、これらを①『当たり前』になっていて気づかないような地域の宝・課題を発掘し、②地域の宝・課題カードをすごろくゲームの遊びを通して活用する仕組みの「まめバスすごろく」で疑似体験！」を考案した。

(アドバイス)

1. オンラインでの活動を全ての場面で工夫する

昨今の新型コロナの対策として、人の濃厚接触を避けるよう生活習慣の見直しが強く求められています。新型コロナ問題がいずれ収束するにしても、21世紀のデジタル社会ではオンラインでの活動が活発になる嚆矢となるものです。本プロジェクトも全ての局面でオンラインによる活動の工夫と試行を強く望みます。

2. 「まめバスすごろく」のサイクルを回してみる⇒心と体の健康（健幸）を目指す

このアイデアの特徴は上図の step1 から step5 までを個別の課題に即して回すことにあります。そこでまずすぐ取り組みそうな課題からこのサイクルを一度回してみることを望みます。その際の課題はメンバーが取り組みやすい「子育て」や「女性活躍」を念頭に置かれては如何でしょうか。そして、次のテーマに移る前に、草津市 UDCBK の持つネットワークを利用されてもらいながら、草津市内のほかの新たなメンバーで同じサイクルを回してみ、それらの結果を一定の時期のあとに披露しあい、改善しあうこともお互いの励みになりますし有益かと思えます。そして複数の活動の拠点巡りのタネを育てていきます。（これらの人気投票もあり得ます）そして集まった市内各所からのより多くの市民とともに次の課題に取り組みます。

3. これまでの活動の「草津おみやげラボ」との有機的連携を図る。⇒経済の健康（健幸）を視野に

「まめバスすごろく」の参加へのインセンティブの一つとして、「草津おみやげラボ」で培った小さなおみやげ開発を1. のサイクルの（オンライン）ワークショップの参加動機に活用するなどの知恵を出し合ってみるのもあるかと思えます。これで心・体・経済「三方よし」の実現に一層近づきます。

4. 草津市役所への期待

草津市にはアーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）という南草津駅前の優れた市民と行政の接点の場があります。この施設の持つソフトパワー（市民や大学とのつながり）をうまく活用して「まめバスすごろく」の市民ネットワークづくりなどをサポートしてプラットフォームとしての支援活動を今後ともさらに期待いたします。その結果、これが UDCBK の成功事例の一つとして実っていくことを望みます。